



## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 酪農	北海や大西洋沿岸、アルプス山脈周辺などの冷涼な地域では、食用穀物の大規模な栽培が難しいため、牧草を育てて乳牛を飼育する農業が発達しました。生産された生乳は、保存性の高いバターやチーズなどの乳製品に加工され、消費の多い都市部へ出荷されています。これは、気候や地形といった自然環境に応じた適地適作の一例です。
問2	<b>答え 1</b> 域内全体の経済を活性化させるため、国境をこえて人々が就労し、企業が投資を自由に行えるようにしている	EUは、国境という壁を取り払うことで、ヨーロッパ全体を一つの巨大な経済圏にすることを目指しています。人、物、資本、サービスが自由に移動できるようになることで、労働力の確保や企業の事業展開が容易になり、加盟国全体の競争力が向上します。関税の引き上げや移動の制限は、この統合の理念とは相反するものです。
問3	<b>答え 1</b> 主要国首脳会議（サミット）と呼ばれ、先進国の首脳が経済や政治の重要課題を直接議論する枠組みである。	1970年代の石油危機（オイルショック）に直面し、世界経済の安定を図るために当時のフランス大統領ジスカールデスタンが提唱して始まったのが主要国首脳会議（G7サミット）です。第1回会議はフランスのパリ郊外にあるランブイエで開催され、以後、日本を含む先進国の首脳が直接対話を行う場として定着しました。
問4	<b>答え 1</b> カトリック	イタリアやフランスなど、ヨーロッパの南部や西部に位置する国々では、歴史的にキリスト教のカトリックを信仰する人が多いことが大きな特徴です。同じキリスト教でも、北欧などで広く信仰されているプロテスタントとは分布が異なります。このような宗教の広がりや、現地の芸術や建築、年中行事などにも深く反映されています。
問5	<b>答え 1</b> 製造業・建設業	日本の産業分類では、自然界から直接資源を採取する農業、林業、漁業を第1次産業、それらを加工する鉱業、建設業、製造業を第2次産業と定義しています。商業、運輸業、サービス業などは第3次産業に分類されます。経済が発展するにつれて、就業人口の中心が第1次産業から第2次産業、さらに第3次産業へと移行していく傾向が見られます。
問6	<b>答え 1</b> ライン川	ドイツとフランスの国境を流れ、北海へと注ぐこの河川はライン川です。スイス、フランス、ドイツ、オランダなどを流れる国際河川であり、沿岸諸国が共同で利用しています。選択肢にあるドナウ川も国際河川ですが、こちらはヨーロッパの東側を流れて黒海に注ぐため、ドイツとフランスの国境という条件にはあてはまりません。
問7	<b>答え 1</b> ドイツ	ドイツはヨーロッパ最大の経済規模を持つ先進工業国であり、機械類や自動車、医薬品の製造・輸出が盛んです。人口密度は1平方キロメートルあたり226人と、広大な国土を持つ北米の国々と比較して高い数値を示します。一方で、1人あたりGDPが5万ドルを超えるアメリカ合衆国と比較すると、経済水準の統計値にわずかな差が見られます。
問8	<b>答え 1</b> 海流の名称は北大西洋海流であり、低緯度から温かい水を運ぶ暖流である。	ヨーロッパ州の西側の海域を流れるのは北大西洋海流です。これは赤道に近い低緯度から高緯度へと温かい海水を運ぶ性質を持っているため、「暖流」に分類されます。この海流の存在が、ヨーロッパの農業や生活環境に大きな恩恵を与えています。
問9	<b>答え 1</b> 北大西洋海流と偏西風	ヨーロッパ北西部が、札幌などの東アジアの都市よりも高緯度でありながら冬に暖かいのは、大西洋を北上してくる暖流である北大西洋海流の影響を強く受けているためです。この暖流によって温められた海上の空気が、一年中西から吹き続ける偏西風によって陸地側へと運ばれることで、緯度のわりに温暖な気候がもたらされます。